

2025年2月23日 主日礼拝 降誕節 第9主日 週報番号3452号

説教題：「隅の親石、信仰のかなめ石」

聖書箇所：イザヤ書28章14-18節（1103頁）、ルカによる福音書20章9-19節（149頁）

説教者：秀島牧師 招詞：讚美歌93-1-26 交読詩編：詩編118編19-29節（130頁）

讚美歌：83/60（どんなにちいさいことりでも）/56（主よ、いのちのパンをさき）/  
419（さあ、共に生きよう）/27

「今週の聖句」〔それゆえ、主なる神はこう言われる。「わたしは一つの石をシオンに据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎(いしずえ)の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない。〕

（イザヤ書28：16）

「牧師室の窓」 「吐く息の白き二月の花屋にも早春の花可憐に並ぶ」

「早春の川沿いの梅出番待つ今年の寒波に思案重ねか」

(1)皆様おはようございます。2月も下旬になりました。寒波の到来が続いており、大雪のことが報じられています。一口に雪と言いましても地域によっても時期によっても雪の性質が異なります。水分を多く含んでいる雪は重さが増してきます。縦横高さが夫々に1m(1立方メートル)では、重量は約千kg(1トン)になり、自動車1台分に相当します。雪が降り積もった住宅の屋根や教会の屋根には何台もの自動車が覆いかぶさっていることになります。屋根や道路の雪かきが重労働です。雪の降っている地域の教会では、礼拝の事前準備が大変です。今日の礼拝の準備は如何でありましょうか。その大変さはその地域で暮らして体験しなければなかなか理解できません。北支区では区域内での講壇交換を昨年から再開しました。良いことと思います。加えて、雪国・北国の教会との交流を、無牧教会への短期間の牧師派遣を含めて、進めるべきと私は思っています。東京にいては目が曇ってしまいます。私たちには、両方を、全体を見る目が不可欠です。聖書も同じです。旧約聖書と新約聖書の両方を読むことが大切です。

(2)きょうの新約聖書の箇所は、エルサレムの町、神殿の境内の中での出来事です。先週の礼拝では、イエス様がろばの子に乗ってエルサレムの町に入られたことを申し上げました。教会では「棕櫚(しゅろ)の主日」と言いまして、イエス様が十字架の死と復活をされるまでの最期の1週間の始まりでありました。エルサレム神殿の境内に入られたイエス様はその境内で商売をしている商人たちを追い出されました。何が問題であり、不都合であったのでしょうか。その理由は、人々が持ってきた動物やお金を、神殿で献げるためには、動物を傷のない動物に買い替え、専用の特定のお金に交換しなければならないと規定されていたのです。つまり、人々が携えてきた真心を込めた動物や献金に代える、ワンクッション入れることによって、特定の人々が利益を得ていたのです。神殿に礼拝に来た人々の信仰を悪用していたことになります。

今日の聖書箇所の右ページの上の段の最期の1行目と、下の段の始めの1行目には何と書かれていますでしょうか。〔(ルカ伝19:46)…「わたしの家は、祈りの家でなければならない」ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にした。〕と書かれています。この言葉は、イザヤ書56章7節であり、先々週2月9日の礼拝での聖書箇所でもありました。イザヤ書56章6節に書かれている「わたしの契約を固く守るなら」と言う御言葉は同じ7節に書かれている「わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」と言う御言葉と密接な関係があるのです。神殿を「強盗の巣」して良いはずがありません。神殿の境内にいる商人たちを追い出したその行為はイエス様が乱暴な行動をしたわけではありません。併し、ユダヤ教の指導者たちにとっては、利益が失われることであり、重大な事件であり、イエス様を殺害する様になりました。一方、民衆はイエス様の話に聞き入っていました。

(3)この事件から数日が立ち、イエス様は神殿の境内で人々に対して福音について話していましたが、ユダヤ教の指導者から咎(とが)められたのです。…きょうの聖書箇所は9節から始まりません。イエス様がぶどう園についての譬え話を人々に話し始められました。9節10節を読みます。

〔(ルカ伝20:9)イエスは民衆にこのたとえを話し始められた。『ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して長い旅に出た。(20:10)収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために、僕を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの僕を袋だたきにして、何も持たせないで追い返した。〕…ここに出てくる登場人物を紹介しますと、「ある人」とはぶどう園の所有者、即ち主なる神です。「農夫たち」はユダヤの人々であり、「僕」とは旧約聖書に出てくる預言者たちです。13節に出てくる「息子」はイエス様です。場面設定である「ぶどう園」はイザヤ書5章の1節～7節に書かれている「ぶどう畑の愛の歌」です。神から託されている(預かっている)畑、農作物をもたらす畑を農夫たちは自分の所有であるかのように錯覚してしまうのです。主なる神の期待に反して失望へと変わっていくストーリーです。〔(イザヤ書5:4)…良いぶどうが実るのを待ったのに、なぜ、酸っぱいぶどうが実ったのか〕、〔(同5:7)…正義を待っておられたのに、見よ、叫喚(きょうかん)。〕人々の叫び声が聞こえてきた。「ぶどう畑」が不正の場となり、人々の悲しみの場になっていることをイザヤは告げています。

(4)ぶどう園の所有者は〔ぶどう園の収穫を納めさせるために、僕を農夫たちのところへ送〕りましたが、〔農夫たちはこの僕を袋だたきにして、何も持たせないで追い返した〕のです。ぶどう園の所有者は2番目の「僕」を送りますが、〔(20:11)農夫たちはこの僕をも袋だたきにし、侮辱して何も持たせないで追い返し〕ました。〔(20:12)更に三人目の僕を送ったが、これにも傷を負わせてほうり出した。〕これまで3人の「僕」を送りましたが、農夫たちは、3人の僕に対して、次第に対応が激しくなっていくとゆきます。「袋だたきにして」が「袋だたきにし、侮辱して」になり、「傷を負わせてほうり出した」のです。これは、人々の対応が次第に悪くなるエスカレートしていく様を表わしています。社会が意識しないうちに徐々に悪化して行くのです。私たちも例外ではありません。感覚がマヒしてしまうのです。

…その様になることを防ぐ方法があります。それは聖書を日々に読み、主の御言葉に耳を傾けることです。私たちの心を素直にして、〔(サムエル記上3:9)…主よ、お話し下さい。僕は聞いております…〕と祈ることです。

(5)話を続けます。20節です。〔(20:13)そこで、ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう。』〕この内容は言ってみれば、最後の切り札です。「わたしの愛する息子」とはイエス・キリスト、即ち、イエス様であります。併し、「ぶどう園の主人」(即ち、主なる神)の思いは実現しませんでした。14節15節〔(20:14)農夫たちは息子を見て、互いに論じ合った。『これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる。』(20:15)そして、息子をぶどう園の外にほうり出して、殺してしまった。…〕予想外のことが起きてしまったのです。

私の感想ですが、イザヤ書には「主の僕」シリーズが4場面構成で記されています。42章の「主の僕の召命」、49章の「主の僕の使命」、50章の「主の僕の忍耐」そして52章53章の「主の僕の苦難と死」となっています。今日のルカ伝の聖書箇所を読むと、主なる神の思いの根底にはイザヤ書の「主の僕」シリーズの4場面があるように思えます。…14節の後半に「これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる」と書かれていますが、そのような判断は見当違いです。

ここで蛇足ですが、イギリスの小説家ジョージ・オーエルが書いた『動物農場』があります。私が大学1年の時の英書講読授業のテキストでした。動物が農場主である人間を追い出してしまいま

す。その後動物同士の権力闘争が起きると言う社会風刺小説です。優れた小説家ですが、日本の所謂、進歩的な学者先生方にはジョージ・オーエルは評判が良くなかったのです。何故ならば、当時の先生方は社会主義を理想とする方が多くおられ、日本のキリスト教の学者先生にもおられましたと聞いています。当時はある国を、その実態を確認することもせず、理想の国家と看做す学者先生方や国会議員もおられた様です。理想の国と信じて、移り住んだ人々には悲惨な生活が、人生が待っていました。

(6) 15節の後半以降には事件の事後対応方法が書かれています。17節18節を見てみましょう。

〔(20:17)イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。』(20:18)その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。〕

この17節に「隅の親石」と書かれている「親石」の「親」のギリシア語は「頭・首・(戸口の頂にある)要石・首都」という意味です。従って、「隅の親石」とは、具体的には2つの意味が考えられます。1つは、建築する時に地面のある場所に置かれた重要な石。2つは、家の入口にアーチ状に組み立てられた門のアーチの中心に置かれた重要な石です。18節を見ると、「隅の親石」が地面に置かれている場合と、人よりも高い位置にある場合との両方に理解することができます。ルカ伝のこの記事の出典は詩編118編の22節23節です。先程、皆様と共に交読詩編で唱和した箇所です。加えて、きょうの旧約聖書の箇所、イザヤ書28章16節です。〔(イザヤ書28:16)それゆえ、主なる神はこう言われる。「わたしは一つの石をシオンに据える。これは試みを経た石、堅く据えられた礎(いしづえ)の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない。〕なんと心強い御言葉でしょう。

不確定な今の時代の私たちにも与えられる心の支えとなる御言葉です。「隅の親石」とはイエス・キリストを示しています。初代教会の時代に「隅の親石」、即ち、キリストが心の支えとなって行くのです。

(7) 先々週2月9日の礼拝説教の中で、約30年間続いた「金利のない時代」から「金利のある時代」への転換が始まると申し上げました。金利には2つの重要なことがあります。

1つには、需要と供給によって金利は決定されますが、限りある資源をどの様に配分するのと言う機能があります。2つには、金利には将来を予想する機能(計算機能)があります。日本の国会では現在、来年度の予算審議で政府と野党との駆け引きが行なわれています。併し、限りある資源をどの様に配分するのと言う議論、つまり、緊急度合の判断・トリアージ(助ける命の選別)の判断が殆どない状態です。政府にも国会議員にも「金利のある時代=厳しい競争の時代」の経験者がおらず、「金利のない時代=ほぼ無競争の時代」に育った人たちの議論のように感じられます。アメリカでは選挙によって指導者が変わり、ヨーロッパも国政選挙で変化しつつあります。世界の政治、人々を取り巻く政治環境が、不確実な時代に入りました。私たちの日本の社会も大きく変動すると予測されます。この様な時にこそ、「隅の親石、信仰のかなめ石」を持つことが、不可欠な時代に入ったと言っても過言ではないでしょう。

・・・お祈りします。

主なるキリストの神様。2月も下旬となり、春が近い時期になりつつあります。大量の雪が降り続けている地域が多くあります。夫々の地域の人々の生活をお守りください。夫々の地域での教会の祈りをお聞き届けください。国際情勢が大きく揺れ動き、中東での戦争も、ウクライナでの3年も続く戦争も長引いている状況です。困難な状態にある人々の生活が少しでも安定しますように、お導きください。平和実現のために働いている様々な人々をお守りくださいますように。

私たちも出来ることをして参りたいと願っています。教会に連なる一人ひとりに、地域で生活している、働いている一人ひとりに、主なる神の御恵みと平安がありますように。

イエス・キリストの御名によって祈ります。 **アーメン**

〔**新共同訳**(イザヤ書28:14)嘲る者らよ、主の言葉を聞け／エルサレムでこの民を治める者らよ。(28:15)お前たちは言った。「我々は死と契約を結び、陰府と協定している。洪水がみなぎり溢れても、我々には及ばない。我々は欺きを避け所とし、偽りを隠れがとする。」(28:16)それゆえ、主なる神はこう言われる。「わたしは一つの石をシオンに据える。**これは試みを経た石／堅く据えられた礎(いしづえ)の、貴い隅の石だ。信ずる者は慌てることはない。**＜But the Lord God says, See, I am placing a Foundation Ston (礎石、土台石、cf.cornerstone 礎石、基礎・基本・肝要なもの) in Zion – a firm, tested, precious Cornerstone that is safe to build on.>(28:17)わたしは正義を測り縄とし／恵みの業を分銅とする。＜I will take the line and plummet of justice to check the foundation wall you built ;>電は欺きという避け所を滅ぼし／水は隠れがを押し流す＜it looks so fine, but it is so weak a storm of hail will knock it down !>。(28:18)お前たちが死と結んだ契約は取り消され／陰府と定めた協定は実行されない。洪水がみなぎり、溢れるとき／お前たちは、それに踏みにじられる。〕

〔**新共同訳**(ルカ伝20:9)イエスは民衆にこのたとえを話し始められた。「ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して長い旅に出た。(20:10)収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために、僕を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの僕を袋だたきにして、何も持たせないで追い返した。(20:11)そこでまた、ほかの僕を送ったが、農夫たちはこの僕をも袋だたきにし、侮辱して何も持たせないで追い返した。(20:12)更に三人目の僕を送ったが、これにも傷を負わせてほうり出した。(20:13)そこで、ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう。』(20:14)農夫たちは息子を見て、互いに論じ合った。『これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる。』(20:15)そして、息子をぶどう園の外にほうり出して、殺してしまった。さて、ぶどう園の主人は農夫たちをどうするだろうか。(20:16)戻って来て、この農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがいない。』彼らはこれを聞いて、「そんなことがあってはなりません」と言った。(20:17)イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。『**家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。**(The very stone which the builders rejected has become the head of the corner’?／the chief cornerstone?)』(20:18)その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」(20:19)そのとき、律法学者たちや祭司長たちは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと感じたので、イエスに手を下そうとしたが、民衆を恐れた。〕